

水資源開発

沖縄総合事務局においては、沖縄本島における河川の治水対策及び復帰後の急激に増大する水需要に対応するため、多目的ダムの建設を推進し、昭和47年の本土復帰から42年間で福地ダムをはじめとして、合計10ダムを完成させました。これらのダムについては、現在沖縄県で管理している倉敷ダムを除いた9ダムを沖縄総合事務局が管理しています。



①福地ダム



建設中の福地ダム

昭和49年12月供用開始
(再開発) 平成3年10月供用開始

⑥漢那ダム



建設中の漢那ダム



平成5年4月供用開始

②新川ダム



建設中の新川ダム



昭和52年4月供用開始

⑦倉敷ダム

建設中の瑞慶山ダム
(現在の倉敷ダム)平成8年4月供用開始
*沖縄県にて管理

③安波ダム



建設中の安波ダム



昭和58年4月供用開始

⑧羽地ダム



建設中の羽地ダム



平成17年4月供用開始

④普久川ダム



建設中の普久川ダム



昭和58年4月供用開始

⑨大保ダム



建設中の大保ダム



平成23年4月供用開始

⑤辺野喜ダム



建設中の辺野喜ダム



昭和63年4月供用開始

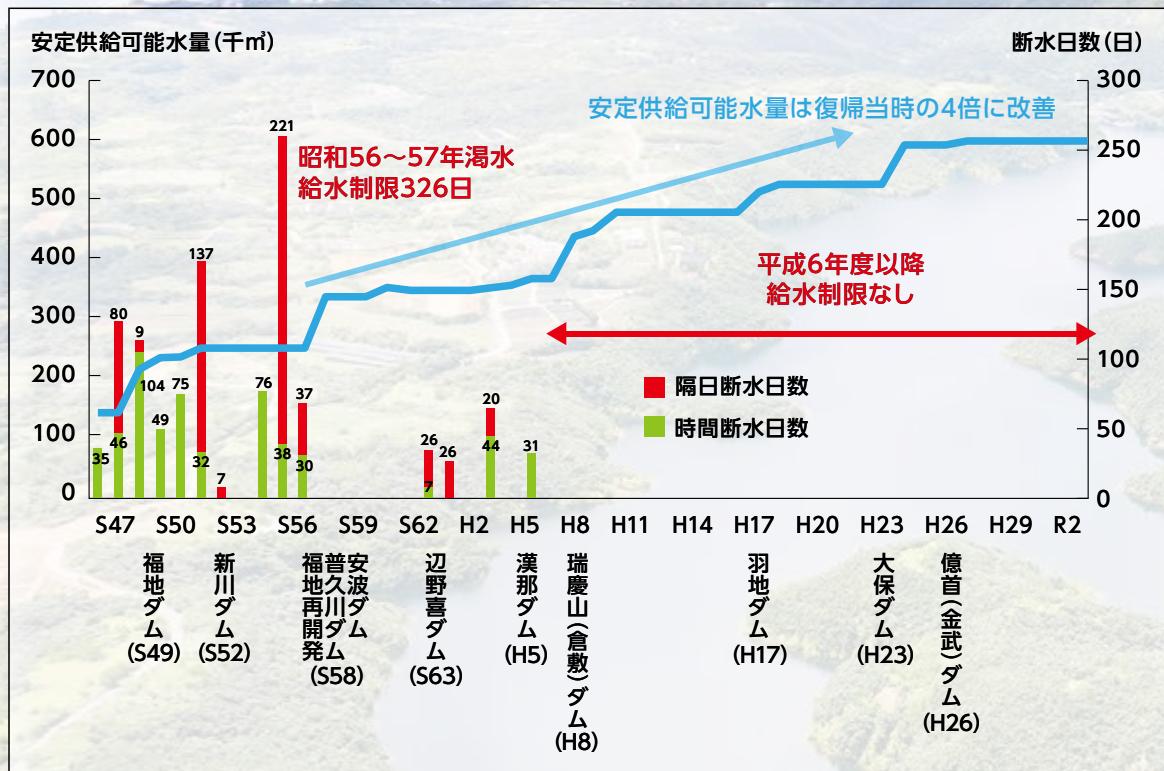
⑩金武ダム

建設中の億首ダム
(現在の金武ダム)

平成26年4月供用開始

ダムの完成と 給水制限日数

復帰以降、国による水資源開発を進めてきましたが、それでも供給が必要に追いつかず、毎年のように給水制限を余儀なくされていました。中でも、昭和56年（昭和57年の渴水は、隔日20時間給水（昭和57年2月4月）を含む、給水制限は実際に326日に及びました。このような厳しい水事情を克服するために沖縄総合事務局では多目的ダムによる水資源開発を進め、安定した水資源を確保してきました。その結果、復帰当時に比べ水事情は大幅に改善され、沖縄本島では平成6年度以降は給水制限を行っておらず、沖縄振兴の基盤となる生活用水等の安定供給に貢献しています。



ダムの完成と給水制限日数

平成26年4月には直轄ダム最後の金武ダムが供用開始となり、国が建設した10の多目的ダムがすべて供用されました。令和2年度においては多目的ダムからの取水が約8割を占める様になり、生活用水等の安定供給に貢献し経済活動や県民生活を支えています。

平均取水量の変化

